

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年 8月 6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2872000845		
法人名	医療法人社団 弘成会		
事業所名	ライフ明海グループホーム		
所在地	兵庫県明石市藤江205 - 3 (電話) 078-925-2005		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成19年 7月 5日	評価確定日	平成19年 8月6日

## 【情報提供票より】(平成19年6月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算	7.4人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨被覆	造り
	1階建ての	~ 1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	日額1,200 円	その他の経費(月額)	14,700 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,700 円	

## (4) 利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	8	要介護2	0		
要介護3	1	要介護4	0		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 87.2歳	最低	77歳	最高	93歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 弘成会 明海病院
---------	-----------------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

目前に瀬戸内海が広がり、左方には明石大橋が望め、散歩道を歩くと波の音がBGMとなり、おおらかなゆったりとした気分になる。そんな環境のもと病院と老人保健施設に併設したグループホームである。ホームに入ると入居者と職員の穏やかな会話が聞こえ、アットホームな感じで落ち着いている。職員は入居者と共に持てる力をフルに活用して、一人ひとりが安心して穏やかに暮らせ、それがご家族に伝わるように日々のケアにあたられている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の評価の中で得た改善課題を職員で話し合い、テーマを絞り、「記録の徹底」を目標に挙げ実践されていた。介護計画の作成・見直し、介護記録の整備等職員全員で取り組まれ、評価が活かされている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	管理者と計画担当者として自己評価を実施し、他の職員が見て意見を出し合うようにされている。評価で出る課題はできることから一つずつ解決に向けた検討、実践につなげる取り組みの姿勢が窺える。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	運営推進会議においてグループホームの説明、ホームでの生活の様子を伝えたり、第三者評価への取り組み状況の報告がされている。会議は認知症への理解を深め、グループホームへの幅広い意見を得る、多くの人の交流の場となる等の目的をもって取り組まれている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	ご家族へは月に1回ホームでの様子を報告書で伝え、来訪時に詳しく話されている。意見や要望がある時は傾聴に努め、納得いくまで話し合い、言いやすい雰囲気作りを心がけられている。出た意見は記録に残し、解決に向けて取り組まれている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	ご近所とは気軽に話せる馴染みの関係を築き、隣接の小学校へは多くの行事に参加する等、地域との交流も多い。自治会のボランティアの協力もあり、入居者が地域の中で暮らしている環境にある。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今までと変わらない生活、生活の自立、人とのふれあい、楽しい生活の支援と分かりやすい理念をあげ、日々の介護にあたられている。		理念の中の人々のふれあいに近所の方、友達、馴染みの方等とのふれあいを大切にしていける、すなわち地域の中で生活する支援が含まれているが、具体的に地域で暮らし続けることの大切さを理念に表して欲しい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、理念を念頭におき、ケアにあたられている。例えば、職員が手伝うことにより気遣いの言葉があるため、遠慮せず暮らせるよう生活の自立の支援に取り組まれている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人全体であるが、夏祭りを開催し地域の方々、ご近所の方、子供達、ご家族等多くの人々が集い交流がなされている。		ご近所の方とは気軽にお付き合いし、隣接の小学校へは音楽会・運動会・作品展等に参加し、地域の敬老会へも参加する等地域とのふれあいを大切にされている。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価に対する取り組みは、管理者と計画作成担当者が自己評価を実施し、職員の意見も得られている。自己評価の取り組みにより、日頃の介護を冷静に見つめ多くの気づきを得られている。		前回の第三者評価を活かして改善点を絞り込み、一つずつでも確実に改善していこうとする姿勢が見られた。今回は介護計画の作成及び見直しと記録の徹底に焦点を合わせ確実に実行されていた。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	2ヶ月に一度、ホームで地域の民生委員、ご家族、施設長、理事、管理者、計画作成担当者等が出席し、グループホームについての説明やホームの様子を伝えたりされている。また、第三者評価の取り組みについても説明されている。		地域包括支援センター、市役所の担当者には会議の出席依頼の案内を出されているが出席されていないのが現状である。しかし、会議の開催により認知症への理解を深め、意見を得て交流の場として活用されている。
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市の会議には、事業所代表として理事が頻繁に出席し、情報を共有され、ホームにも伝達され、行政と連携できるようされている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	ホームでの様子を報告書にまとめ1ヶ月に一度ご家族に手渡され、金銭管理の報告もされている。また、面会時には様子を細かく伝えられている。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	ご家族からの意見は職員が聞き、内容によりミーティングで話し合い解決されて、個人記録に残されている。また、意見や不満を言いやすい雰囲気づくりを心がけ、お互い納得がいくまで話し合う対応をされている。運営推進会議での意見を検討されている。		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の交代による入居者への影響を最小限にできるよう、お互い慣れるまでフォローしていく体制をとられている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修は認知症介護に関する研修を順番に受講し、法人内の研修にも積極的に出席されている。また、受講後の伝達研修も実施されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護サービス事業者連絡会議に出席し、情報交換に努められている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にご家族と一緒に来所してもらい、会話により意向や要望を聞き、ホームの雰囲気体験してもらっている。また、入居後は慣れるまでご家族の面会を多くしてもらい、声掛けを十分にし、自然に馴染める支援をされている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活を一緒にしていく時に教えてもらう立場に立って、入居者の今までの生活の工夫を学んだり、多くの会話を持つことにより、より良い関係の構築に努められている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居後落ち着いてからアセスメントに基づき、その人の思いやどう暮らしたいかを把握し、ご家族の意向も含めて希望の実現に向けた支援をされている。</p>		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の意向、ご家族の希望を十分把握し、担当者会議やミーティング時に情報を得て、課題解決に向けたケアプランを作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的、且つ状況に応じてモニタリングを行い、カンファレンスを開き、前回の評価、医師・看護師の意見、本人・ご家族の意向を踏まえたプランの見直しをされている。</p>		<p>状況の変化時はもちろん、最低3ヶ月に一度遅れることなくプランの見直しができおり、課題の解決に向けたケアにつなげられている。</p>
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>併設の法人の機能を活かし、医師・看護師等と常時連絡をとり、デイケアでは継続してリハビリテーションを実施することができる。また、送迎車を利用し、外出の支援もスムーズにできている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	主治医とは連絡を密にし、入居者やご家族の希望にそった適切な治療や健康管理が実施できている。眼科、整形外科等他科受診が必要な時は、ご家族の協力を得ながら職員が連絡して様子を窺い、適切な対応をされている。		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	入居時に、看取りについての説明を行い、同意も得られている。併設の病院と訪問看護との連携により365日、24時間の連絡体制が確保されている。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	研修で認知症についての理解を深め、一人ひとりを尊重し、思いが共感できるよう傾聴を大切にされている。また、記録物は事務所に保管し、適切に個人情報を保護されている。		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	1日のタイムテーブルはある程度決められているが、入居者の希望を優先し、無理強いせずそれぞれのペースで過ごせる支援をされている。		ホームの中では自由にそれぞれの思いのまま過ごされ、仲の良い友達と話をされたり、趣味の手芸をされたり、好きなように暮らせる支援をされている。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に1回の手作りの昼食では献立、買い物、調理、後片付けまで入居者の方と一緒にされている。誕生日ではおやつを手作りにされている。給食時は準備と後片付けと一緒にされている。		食事に関わる一連の作業は入居者の多くの能力を発揮できる場面があるため回数を増やし、楽しみや心身の力の維持向上につながる支援を取り組んで欲しい。また、限られた方だけでなく、多くの方の前向きな気持ちを引き出せる支援が期待される。
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は一応決められているが、その人の体調や希望に添った入浴の支援がされている。一人で入れるひとは見守り程度とし、ゆったり楽しめる支援がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や趣味を活かしたそれぞれの役割の支援や趣味の活動の支援がされている。		役立っている実感が得られるように炊事が得意な人には台所で活躍してもらい、園芸の好きな人は花壇で花や野菜を育てたり、華道をされていた人は自身で草花を摘んで活けたり、人形作りの好きな方は以前の友達を招いて一緒に手芸をして部屋に飾られたりと、それぞれに合った支援がされていた。
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩は見守り中心で自由に行かれ、買い物も皆で行き、自身で欲しいものを買われている。また、お天気や気分ドライブにも出かけられている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はAM7:00～PM7:00の間、施錠せず居室は24時間施錠されていない。また、チャイム等も使用されず、職員は一人ひとりの状況把握に努め、常時ドアの開閉の音に注意されている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で年に2回の防火訓練は実施され、マニュアルやフローチャートは準備され、緊急連絡網の整備もされている。しかし、入居者も一緒に避難訓練は実施されていない。		今後は入居者も交えて実際に誘導して日中及び夜間の避難訓練を定期的実施されることが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況及び水分摂取量は一人ひとり把握されており、状態が悪い方は詳細を記録に取り、主治医に報告されている。		併設の訪問看護ステーションから、週に一度看護師が来られて、健康チェックや健康相談等栄養状態も含めた健康管理がなされている。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造は施設的であるが、共用の場所は自由に使える、ダイルームにマッサージ機があり、好きな時に自由に使用されている。ホーム内は静かで、隣接の小学校の子供達の元気な様子が窺え、入居者の方々は目を細められていた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれの使い慣れた家具や日用品を置かれ、仏壇や神棚、装飾品を持ち込まれ、安心して暮らせる場となっている。		

 は、重点項目。